高齢者福祉施設における職員研修に関する一考察

― 介護職員研修に伴う現状と今後の課題 ―

○ 東北福祉大学　　氏名　佐藤　博彦（会員番号 5895）

キーワード３つ：　高齢者福祉施設　　介護職員研修　　スーパービジョン

１．研 究 目 的

施設職員として質の高いサービス提供を実現、維持するためには、研修を受けることは必要であり、研修を受けることによって、修得した知識・技術を利用者、地域等へと還元することが可能になると考える。そしてその結果として、施設職員の質の高いサービス提供が期待されるということになる。

高齢者福祉施設における研修会は、大別すると施設外で開催される職場外研修と施設ごとに実施している職場内研修とに分けられる。

高齢者福祉施設においては、専門知識・専門技術の修得のために、どのような方法・内容で開催されているのか。また、職場内においてスーパービジョン体制は確立されているのかどうか。スーパーバイザーが職場にいない場合は、自身でどのように解決しているのか。その具体的方法を明らかにしていくことが本研究の目的である。

２．研究の視点および方法

（１）研究の視点

①高齢者福祉施設における職場内研修について、開催回数、研修テーマ、講師は誰が努めているか。②職場内にスーパーバイザーが存在しているのか、誰がスーパーバイザーの役割を担っているのか、スーパーバイザー不在の場合は、自身（介護職員）がどのような手段で知識修得および利用者支援の方法（知識・技術）を修得しているのか。その現状を把握する。①②の結果に基づいて、利用者への質の高いサービス提供および職員の資質向上を目的とし、高齢者福祉施設におけるスーパービジョン体制確立の方法を探る。

（２）方法

Ａ県内の高齢者関係施設に勤務する介護職員（Ｂ主催「Ｃ研修」）参加者 220 人に対し、アンケート用紙を配布し調査を実施した。

３．倫理的配慮

Ｂ主催にて開催された、「Ｃ研修」の参加者に、本アンケート調査の目的を説明した。①職場内研修会の開催方法とその具体的内容の把握、②職場内におけるスーパービジョン体制の状況確認をすること。高齢者福祉施設におけるスーパービジョン体制確立のための一助とすることを目的としているという旨を説明した。また、本アンケート提出によって、氏名、勤務先名も一切公表されないこと、提出も任意であることをすべての参加者に対して口頭で伝えている。主催者Ｂには、事前にアンケート実施の主旨およびアンケート内容を説明し、また受講者へ対して行なう説明内容についても、承諾を得た。

４．研 究 結 果

「日々の業務の中で、専門的対人援助技術をどんな方法で学んでいますか。」では、やはり「同職種の先輩」との回答が最も多かった。特に高齢者福祉施設の場合、職種（介護・看護・栄養職等）ごとに明確に事務分掌が定められており、その職種ごとに専門知識・専門技術を各人が修得しているという結果である。次に多かった回答が、「同職種の同僚」であり、次いで、「研修会（職場内)」で学んでいるという回答であった。また、「研修会（職場外)」で学んでいるという回答も多かった。ただし、「職場外研修」に関しての課題も明らかになった。その内容は、①自分の受講したい研修を受けられない。②研修受講が順番で決まっている。③同じ内容の研修を受講することもある。等である。

また、「学べる環境が整備されていない」という問題もある。専門的対人援助技術を学ぶにあたり、「自分自身で考えながら援助を行っている」が 66 人、「専門誌・テキストから」が 26 人、「インターネットから」が 11 人という結果となっている。これは、「指導をしてくれる人がいない」ということ、つまり「スーパーバイザー」が職場に存在していないということをも意味している。

「職場内研修の頻度」、について 9 割弱の施設においては、「1～2 か月に 1 回」は「職場内研修」を開催しているという結果であった。また、「職場内研修の講師は誰が担当していますか。(複数回答可)」については、介護職員を対象としたアンケートでもあり、回答で多かったのが同職種でもある「介護職員」、次いで「看護師」、「栄養士」であった。

「職場内でのスーパービジョン体制」等の結果について、「日々受けている」が 12 人、「必要の都度受けている。」が 145 人で、全体の 71%を占めていた。また、「スーパービジョンを受けたことがない者」が、220 人中 53 人いた。中には（自由記述において)、「上司にスーパービジョンを求めるがスーパービジョンになっていない」と回答した者もおり、介護職員が求める「スーパーバイザー」が職場にいないということも明らかになった。「スーパービジョンは必要だと思いますか。」については、「絶対必要」が 71 人、「必要」が 121 人で、全体の 87%の者がその必要性を実感している結果となった。

5. 考 察

高齢者福祉施設では、現実として「スーパービジョン体制」が未確立のところがある。専門職の実践現場であるのにも関わらず、「スーパービジョン体制」が未確立であるというのは、良い環境であるとは言えない。そこで、現行制度を活用しながら、この課題を解決することは可能だろうか。解決するためのひとつとして考えられるのが、「社会福祉士実習指導者講習会」および「実習指導者フォローアップ研修会」の活用である。講義科目として「スーパービジョン」が位置づけられているということ、そして、「実習指導者フォローアップ研修会」を継続的に受講することによって、スーパーバイザーとしての質の担保が保障されるからである。この活用方法を今後追求していく。